

**留学先国名** : オーストラリア

**留学先学校名** : オーストラリア国立大学

**留学期間** : 平成 28 年 2 月 15 日 ~ 平成 28 年 6 月 27 日

### 学習・研究成果の概要

オーストラリア国立大学への交換留学では、1) 卒業論文作成に必要な国際政治学の専門知識を身につけ、それらを英語で表現できること、2) 英語で専門的な内容を議論できること、3) 世界中の人とチームを組んで課題に取り組むことの3点を目的としていた。今回の留学で履修した4科目は、卒業論文のテーマである「韓国の公共外交」に、有益な示唆を与えてくれるものであった。

オーストラリア国立大学は、オーストラリアの首都キャンベラに位置し、国際的指標でも高い評価を受けている大学である。学部・大学院共に非常に充実しており、公共政策学、国際関係学、安全保障学などの分野で世界トップレベルを誇っている。私は、アジア太平洋学部国際関係学専攻に所属し、アジア学と国際関係学の授業を履修した。

オーストラリア国立大学の授業は、2時間の講義と1時間のチュートリアル（少人数でディスカッション）で構成され、ほとんどの授業で2回のテストとレポートが課された。私は、2回目の交換留学だったので、専門的な内容を英語で学ぶことに抵抗はなかったが、授業ごとに毎週2本の論文購読が課され、チュートリアルでも課題が課されたのでかなりハードであった。今後、留学を検討される方は、事前に授業に関して情報収集をし、事前学習を徹底すべきである。

ASIA2049（韓国の政治社会）の授業では、導入として韓国の独立後の歴史と儒教について学んだ後、現代韓国の経済、社会、政治の諸問題について深く掘り下げた。特に、韓国における報道規制とセウォル号事件に関する授業である。この授業は、日韓両国の負の部分の浮き彫りにするものであり、内閣が報道介入を強めている日本の報道のあり方を考える上で、非常に有益であった。

STST2001（アジア太平洋の安全保障問題）の授業では、アジア太平洋地域の国際関係及び安全保障問題について広く概観した。毎週2本の論文を読みこなしながら、歴史、経済、政治など、幅広い内容について考察した。また、授業で学んだ理論を用いてペーパーを書くことが求められ、要求されるレベルも高かった。私は、朝鮮半島の安全保障に関してペーパーを書いたが、アジア太平洋地域との関係を盛り込めておらず、多くの視点から考察を加えることができなかつたのが心残りである。

ASIA3021（オーストラリアとアジア）の授業では、オーストラリアとアジア太平洋地域の関係を気候変動、移民、公共外交など、様々な視点から考察し、インド・中国の台頭によって変化するアジア太平洋の将来について議論を深めた。移民やテロなど、教育や国際政治の分野に関連する内容もあり、他の科目の学習内容と関連させて学ぶことができた。ペーパーでは日豪の気候変動への取り組みについてまとめ、国家消滅の危機にさらされている大洋州との協力について提言した。

STST3001（アジア太平洋の非伝統的安全保障問題）の授業では、非伝統的安全保障問題に

ついて、Rational Choice Theoryをベースにしながら議論を深めた。テロや紛争だけでなく、気候変動やサイバーテロについても学び理解を深めた。エッセイでは、アジアの人身売買についてまとめ、各国の対策を比較しながら、地域レベルでの協力の可能性と課題について考察を加えた。

課外活動は、Japanクラブと登山部に所属していた。Japanクラブの活動としては、週に1度Language Exchangeという活動があり、日本語を学ぶ現地生に日本語を教え、逆に現地生から英語を教えてもらうというものであった。また、不定期で交流会が開かれ、日本に興味を持つ現地生と友達になる良い機会であった。登山部は、私が住んでいたFenner Hallと体育会の両方に加入していた。オーストラリアは自然環境に恵まれており、キャンベラ周辺にもハイキング登山に適した場所が多くあった。体育会の登山部は、初級から上級までのコースがあり、自分のレベルに合わせて、インストラクターの指導を受けながら楽しく活動ができ、現地生や地域の方と交流する機会にも多く恵まれた。

1セメスターという短い期間であったが、授業と課外活動をうまく両立することができた。しかし、授業は日本の大学に比べてかなりハードであるので、現地の学習環境に慣れるまでかなりの時間を要すると思う。当初、大学の研究所でのインターンを予定していたが、国籍の関係で不採用（国政選挙の年であったため）となったので、政府系機関や研究所でのインターンは事前の情報収集が必須である。

今回の留学では、韓国及びアジアに関する授業を多く履修し、国際関係学と国際政治学の専門性を高め、日本では学ぶことのできない内容について理解を深めることができた。今後は、留学中に引き続き、卒業論文執筆に向けて、先行研究の論文を読み込みや史料調査を頑張りたい。